



「能登がわたしの古里になってよかった。ここならやっつけていけると思っている」。

平成18年3月、京都府美山町から大箱の地に移住した抒情書家・室谷一穂さん、朱琴さんの一人娘、室谷文音さんは、能登で過ごした2年余りの生活をこう振り返る。文音さんは2歳から筆を持ち、5歳のときには婦人雑誌「ミセス」に連載、「ニユーステーション」に特集されるなど、その才能は幼少のころから注目を集めてきた。

「人のために使うエネルギーを自分のために使

海の見えるアトリエから

どんな作品が生まれるか楽しみ

たい」と13歳で単身イギリスに留学。中学、高校、大学とイギリスの学校を卒業し、イギリスの永住権も取得した。「イギリスは人生の半分を過ごした、わたしにとってなくてはならない場所」と話す文音さん。現在は日本とイギリスで半年ずつの生活を送っている。

文音さんの作風は「白と黒」で描かれるイメージが多い。「イギリスにも筆と硯を持っていったけど、高校、大学の作品には一度も墨を使わなかった。大学の卒業制作のときに『やっぱわたしには墨しか

ない』と思ってキャンパスに書いた白黒の作品が今のわたしの原点」なのだという。

そんな文音さんが、この7月に内浦長尾の高台に新たにアトリエを構えた。五色ヶ浜を臨み、日本海が一望できるアトリエを「桃花林」と名付け、「えもじ暦」展を開催した。「今回の個展は、アトリエのお披露目を兼ねて、地元の人に作品を見てもらうことで自分を知ってもらいたかった」と話す。

個展名「えもじ暦」には、絵を見て言葉が浮かべてほしいという文音さんの思いがある。「作品を見るときには、その人の想像力で見てほしい。そのためタイトルも余白を生かしたものにしている」ということだ。個展の後は、このアトリエでの本格的な創作活動に入るという文音さん。「大箱の五友宿とは対照的な海の見えるこのアトリエで、どんな作品ができるか自分でも楽しみ」と意欲をみせる。

文音さんは、能登国際テニスや町の国際交流事業で通訳としても活躍している。「国際交流は人と人とのつながり。能登に来た外国人の心に【NOTO】が残ってくればすてきなこと。わたしの英語が役に立つことがうれしい」という。

室谷一家には、「2010年に世界中の人を能登町に集めたい」という夢がある。能登の人情、風土に触れた今もその夢は揺るがない。

文音さんはきっぱりと言い切る。「世界から見ても【能登】は一番きれいなところ」なのだ。

抒情書家 室谷文音



Ayane Muroya

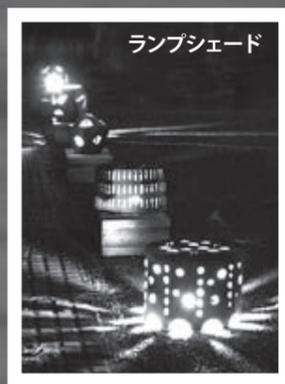
【PROFILE】1980年大阪府豊中市生まれ。4歳のときに両親と京都府美山町に移り、7歳で大阪市のギャラリーで個展を開く。13歳で渡英し、名門セントラル・セント・マーティン美術大学を卒業。留学時代から両親と日本各地で展覧会を開催し、現在はイギリスでも個展やグループ展など多数行っている。27歳。





胸を焦がす。4000個の炎が

悲恋伝説で知られる恋路浜
夏の終わり
愛の伝説と灯りが織りなす幽玄の世界へ
ロウソクの灯、ランプシェードの炎の揺らぎ
繰り広げられる優雅な恋の踊り
勇ましい太鼓の響き
静寂の中に打ち寄せるかすかな波の音
新しい恋の物語が
今ここから生まれる



プログラム

- 16:00 「民宿で恋路物語食談」
- 18:00 4,000個のロウソク、かがり火、ランプシェードに点灯
- 19:00 縄文女組太鼓 実演
- 19:30 日本舞踊 藤間他喜代社中 舞踊「恋の絵模様」
- 20:00 唐獅子太鼓 実演

「恋路物語」を包み込んできた 地元民の優しさ

『小平次の里で逢瀬を重ね、深い恋仲だった助三郎と鍋乃。そして鍋乃を想うあまり、助三郎を騙し命を奪ってしまった源次。真実を知った鍋乃は、助三郎の後を追ってこの世を去ってしまう...』
時が経ち、丘の上の小さな観音堂が、いつしか男女の仲をとりもつ「縁結びの堂」と呼ばれるようになった。そこには若き日の過ちを悔い、僧侶となって故郷に戻った源次その人の姿があった。そのころから誰ともなく、この地を「恋路」と呼ぶようになったのだという。『恋路の悲恋伝説』

悲恋で終わった鍋乃と助三郎の銅像が今、恋路浜で弁天島を背景に佇むつまじく寄り添うように建てられています。遠く離れた八丈島（東京都）にも男女並んだ銅像が存在しています。宇喜多秀家と妻の豪姫（加賀藩前田利家の娘）の像です。
1600年「関ヶ原の戦い」で八丈島に流罪の刑として流され、一人寂しく人生を終えたという宇喜多秀家。後に島民らの「秀家様が寂しかろう」との思いから、妻の豪姫と二人で並ぶ銅像を建て、次の世の幸福を願ったのだといいます。地元民の温かく、優しい心が、この二つの物語を今に語り伝えてくれています。

「夏の終わりの恋路物語一夜」は人思いやるといふ優しい心を大切にしたいイベントです。平成の世となっても「恋の聖地」として恋路は人々の心に生きつつけることでしょう。

「夏の終わりの恋路物語一夜」 日時:8月30日(土)18:00 会場:恋路海岸

民宿で恋路物語食談

ボランティアガイドが恋路物語を紹介します。恋路にゆかりのある日本舞踊家の藤間他喜代さんも交えて開かれます。
〈日時〉8月30日(土)
午後4時~5時30分
〈定員〉先着25人
〈料金〉1人...3800円
〈申し込み〉観光協会「街の駅ぽっぽ家」 ☎62-2117

能登町の太鼓実演



舞踊「恋の絵模様」

純愛物語が語り継がれる恋路海岸をバックに、金沢市の藤間他喜代社中が舞踊「恋の絵模様」を艶やかに舞います。



ランプシェード作り体験

恋路浜を神秘的な灯りで演出する縄文焼きランプシェードをあなたも作ってみませんか。制作工程や費用、日程など詳細については左記までお問い合わせください。
〈申込期限〉8月15日(金)まで
〇のと縄文工房 (鶴川) 山中梅峰 ☎67-11227

〇観光協会事務局 (商工観光課内) ☎72-2505

「19億6800万円」を改善

能登町行政改革大綱に基づいて平成17年度から平成21年度までの5年間の実施計画を策定、さまざまな取り組みを進めている行政改革。今回はその概要についてお知らせします。この実績を踏まえ、計画の見直しを行いながら今後さらなる「改革」を推進します。



■平成19年度までの実施計画に係る取り組み実績

主な内容	削減効果額 (3力年の合計)
1 組織・機構の合理化	
・保育所の統廃合(瑞穂・白丸)	600万円
・小学校の統廃合(白丸・三波・瑞穂・神野)	7,600万円
・中学校の統廃合(瑞穂)	1,400万円
・職員数の削減(91人)	6億5,500万円
・管理職手当の削減(40%)	3,100万円
・特別職の期末手当の削減(30%→50%)	600万円
・町議会議員の期末手当の削減(20%)	700万円
・一般職の期末勤勉手当の削減(20%)	3億4,200万円
・委員報酬の削減(10%)	1,300万円
・55歳からの給料の段階的削減(2%~6%)	1,700万円
2 窓口サービス等の向上	—
3 公共施設の適正管理と運営等の効率化	
・公共施設の指定管理者制度の導入(84施設)	500万円
・埋立処分場の休止(柳田)	500万円
4 財政の健全化による安定基盤の確立	
・団体運営補助金の削減(20%)	2億1,600万円
・公社の統廃合	2,100万円
・イベントの見直し	2,200万円
・前納報奨金の廃止	2,000万円
・各種祝金等の廃止および見直し(結婚祝金、在宅長寿祝金など)	4,400万円
・事務服貸与の廃止	600万円
・使用料、手数料の見直し(ごみ袋、斎場利用料金等)	7,900万円
・税等の徴収対策の強化	1億3,600万円
・墓地公園使用の推進	2,300万円
・遊休資産の売却	3,700万円
・上下水道料金の適正化	2,100万円
5 事務事業の改善・効率化	
・宿日直業務の見直し(柳田、内浦庁舎の宿日直業務廃止)	700万円
・病院医療事務の外部委託の拡大	2,100万円
・投票所、ポスター掲示場の見直し	2,400万円
・医療用物品管理の合理化	1,500万円

■平成20年度以降の実施計画検討内容

- ・分庁方式から本庁、支所方式への見直し
- ・役場組織の見直し
(最終的には12課2局1室3支所程度に統合)
- ・小中学校の統廃合の推進 ・職員数の適正化
- ・公共施設の管理、運営方法の見直し
- ・事務機器などの事務事業経費の削減
- ・公用車の管理経費の削減
- ・上下水道料金などの各種利用料金の見直し
- ・窓口サービスの向上 ・協働による町づくり
(以上主なもの)

■能登町行政改革評価委員会を設置

能登町は、社会情勢の変化に対応した簡素で効率的な町政の実現を推進し、行政改革に町民の意見を広く反映させることを目的に、能登町行政改革評価委員会を設置しています。委員会では能登町の行政改革の推進に関する重要事項を調査審議します。平成20・21年度の任期で任命されているのは次の皆さんです。

〈能登町行政改革評価委員会委員〉
橋本忠雄 桑名幸子 福池正人 数馬雄晴 新田 豊
吉岡梅子 大路清子 洲崎一男 中 與七郎

☎総務課 行財政改革室 ☎62-8510

公民館通信

第13号

小間生公民館編

久田和紙の里としても知られる小間生地区。上長尾、小間生、鈴ヶ嶺、桐畑、久田の5つを合わせた地域を対象に活動を行う小間生公民館を紹介します！

和紙作りでみんなの「輪」を作ろう！

木造ならではのやすらぎが感じられる小間生公民館。旧小間生小学校の校舎を利用して平成14年に設置され、各地域や、各種団体から選ばれた審議委員や協力委員の協力を得ながら年間を通じた行事が進められています。

さまざまな行事の中でも、この地区に伝わる「久田和紙」の保存継承活動は、公民館活動の中核として力を注いでいます。毎月2回開かれる「和紙作り教室」は、みわ会のメンバーが中心となって、和紙作りのほか造花やしおりなどの作品作りを楽しむことができます。

また、この教室では地元中学校の卒業証書作りを生徒たちと一緒に手がけています。昨年度からは紙をすくという工程だけでなく、原料となるコウゾの切り出し作業などにも生徒たちが参加しているそうです。地元の子どもたちに限らず、町内各小学校の児童や、海外からの留



蒸しあがったコウゾの原木から樹皮をはがす作業。たくさんの工程を要する和紙作りを体験することで、物づくりの大変さや卒業証書を完成させる達成感を感じることができます



昨年、ジャパンテントに参加した留学生たちも紙すきに挑戦！地域の大切な伝統工芸が国際交流に役買いました

●小間生公民館で楽しめる教室・サークル

教室サークル名	開催日	教室サークル名	開催日
みわ会(紙すき)	第2・4水13:30	切り絵教室	随時
お茶のマナー教室	全5回	和紙作り出前講座	随時

学生も小間生公民館を訪れ紙すきに挑戦するなど、和紙作りが交流の「輪」を広げています。

そのほか、公民館では手軽な生涯スポーツを楽しむこともできます。毎年秋には誰でも気軽に参加できるグラウンドゴルフ大会が開催されます。昨年は60人が参加し、柳田植物公園で爽やかな汗を流しました。趣味の講座では、切り絵教室や料理教室、生花教室など地域の皆さんのニーズに合わせた講座も催されています。



お茶のマナー教室は、小間生集会所を会場に開かれています。会話を楽しみながら作法の基本について学びます

より親しまれる公民館を目指して

公民館には「いろいろなことを学びたい」という人の要望に応え、新しい発見・出会いの場を提供するという役割があります。そして、公民館活動には地元の皆さんの支えが必要です。公民館を通して地域が一つになる機会をつくることで、より充実した事業へと発展していきます。館長の谷内静雄さんは「久田和紙の継承活動も含め、地元の皆さんに公民館活動に対する理解をより深めてほしい」と話します。一番身近な生涯学習の場として、ぜひ小間生公民館を利用してみませんか。



大勢のボランティアが集まり公民館の花壇と集会所のプランターにきれいな花を植えた「花いっぱい運動」の様子

社会を明るくする運動
地域の顔が見える社会を作ろう

地域間の絆が強い環境では非行や犯罪が起こりにくいといわれています。家族や地域社会の交流を深め、犯罪のない明るい社会実現のために取り組まれている「社会を明るくする運動」のメッセージ伝達式が7月1日、能都庁舎で行われました。

この運動は、犯罪防止と罪を犯した人の更正についての理解を深めようと全国的に行われています。式には珠洲・能登地区保護司会から6人の保護司が出席し、法務大臣からのメッセージを持木町長に伝達しました。このあと保護司らは街頭キャンペーンに出発し、町内各地で理解と協力を呼びかけました。



法務大臣からのメッセージを読み上げる保護司の梶原征一郎さん

山中梅峰さんにきれいな粘土ひもの作り方を教わります



縄文焼きランプシェード作り
夏の夜を照らす灯りを手作りで

縄文焼きを通して地域を活性化しようとさまざまな取り組みを進めている「のと縄文工房」。今年は町内で開催されるイベントに子どもたちの作品を展示してもらおうと、町内各小学校へ縄文焼きランプシェードの制作指導に向かっています。

7月8日には松波小学校の6年生22人が制作に挑戦し、個性豊かな作品を作り上げました。完成したランプシェードは8月30日に恋路で開催されるイベント「夏の終わりの恋路物語一夜」、宇出津で9月14日に開かれる「商店街祭り歩行者天国」で火が灯され、能登を訪れた大勢の観光客らをもてなします。

地域の人たちと協力して組み上げたキリコを担ぐ児童



子ども農山漁村交流プロジェクト
春蘭の里へ修学旅行に来ました

7月2日から4日にかけて、金沢市の菊川町小学校の5年生40人が「春蘭の里」へ宿泊体験に訪れました。このプロジェクトは、自然や地域の文化に触れることで、子どもの自立心や思いやりの心を育むことを目的に、本年度初めて実施されました。参加した児童たちは、宮地交流宿泊所「こぶし」でキリコの組み立てなどを体験。胴には自分たちの名前を記し、おはらいをして魂を吹き込まれたキリコをみんなで協力して担ぎ上げました。能登の祭り文化を体感した子どもたち。きっといつまでも記憶に残る貴重な宿泊体験になったことでしょう。

新エネルギー教室
どこにでもある資源って何!?

太陽光や風力など地球温暖化問題解決に有効とされる新エネルギーについて学ぼうと、松波小学校と宇出津小学校の5・6年生の児童を対象に「新エネルギー教室」が開かれました。

7月14日に各小学校を会場に開かれたこの教室は、資源エネルギー庁が全国200カ所の小中学校を対象に行っているものです。児童たちは有機物をエネルギー源として利用するバイオエネルギーについて考えたり、効率よい風力発電へとつながる風車作りや発電実験に挑戦するなど、楽しみながら新エネルギーの重要性や必要性に対する理解を深めました。



自分で作った羽根がどれだけの電力を作りだすのかを測定中!

PTP石川プログラム in 能登
アメリカの中学生と日本文化で国際交流

▶柳田中学校の生徒たちに指導を受けながら書道を体験。それぞれの作品を手にとってみんなで記念撮影!



▼最後の夜は岩井戸公民館で柳田きりこ太鼓が披露され、参加者も一緒になって太鼓を楽しみました



6月21日から24日の3泊4日、アメリカの青少年団体「PTP」が派遣する中学生ら40人が、能登町内の中学生たちとの交流を深めようと各学校や家庭を訪問しました。「PTP」とは、正式名称「PEOPLE TO PEOPLE INTERNATIONAL」の略。1956年にアイゼンハワー元大統領の発案により創設されたもので、青少年の国際相互理解促進を目的として作られた青少年育成団体です。

このプログラムは日本の文化や生活習慣、スポーツなどを通じて国際理解を深めます。23日、参加者らは柳田中学校を訪れ書道に挑戦しました。地元の中生たちも英語で積極的にコミュニケーションを図っていました。中には、メールアドレスを交換して「アメリカのメル友ができた!」と嬉しそうに話す姿も見られました。

出島関 第二長寿園慰問
良い相撲をとって能登へ恩返し

6月27日、大相撲の幕内力士として活躍する出島関が第二長寿園を慰問に訪れ、施設利用者など120人が出迎えました。

4年ぶりにこの施設を訪れたという出島関。二又よりさんから歓迎の花束を受け取り「今日は皆さんから元気をもらいました。名古屋場所では良い相撲をとって元気を返しますので体調に気をつけてテレビで相撲観戦してください」とあいさつしました。出島関は10月16日に能登町で開催予定の大相撲能登場所にも参加します。能登に元気を与えてくれる力強い取り組みを期待したいですね。



出島関を囲んで記念撮影をする利用者のみなさん

新メニューを試食する参加者(のとふれあい文化センター)



能登井 夏・秋メニュー登場
道場六三郎さんも納得の新井

「能登井」の夏・秋新メニューお披露目会が7月1日、穴水町のとふれあい文化センターで開かれ「料理の鉄人」でおなじみの道場六三郎さんら関係者が新メニューを試食しました。

「能登井」は、奥能登の各飲食店が地元の食材を生かした井作りで誘客に結び付けようと、昨年12月から取り組んでいるプロジェクトで、今年3月までに15,000食、約2,600万円を売り上げています。この日は「縄文井」など12メニューが紹介され、道場さんは「能登の魚や野菜を生かし、お客様には思いやりの心で接してください」と参加者にアドバイスしていました。